

## 熊倉学長 講評（全文）

旧金谷中学校跡地は、現在、大変注目されている場所です。

何ととっても非常にアクセスが良い場所です。東名からも、また富士山静岡空港からも非常に近い。そして、そこにまた、「お茶の郷」というお茶に関する日本で唯一の博物館があります。そういうものを集合して、県の方では「茶の都」構想というものを持っています。「茶の都」という世界に冠たる、日本の茶処の中核である静岡の更に中核である牧之原台地に茶の都を創ろう、という構想です。

旧金谷中学校跡地の活用というのは、「茶の都」構想の要となるものであります。従いまして、この跡地利用に対してどんなアイデアが生まれるか、ということは色々な意味で注目されていたと思います。

何と申しましても、牧之原台地は、徳川の武士達が、そして島田市、金谷町の人々が、協力して、あそこに茶園を拓いたものです。その茶園は、近代日本の農産物の最大の輸出品の一つとして、日本の国力を増強する外貨を得る手段として、お茶の輸出は日本の近代化という重要な手段でありました。ある意味では、日本の近代は牧之原台地から出発した、ということも言えることでもあります。そういう場所の中核にある金谷中学校跡地をこれからどのように活用するか、ということが大きな課題となっているわけであり

ます。それに対してまして、新しい民間の活力を活用しながら、そして周辺の景観と調和しながら、色んなアイデアをそこに盛り込んだ新しい施設の建設というためのスタートとして、今回のアイデアコンペが行われた、と思っています。

さて、この度、最優秀賞を受賞されました「富士見の湯」というアイデアですが、これは一般投票大賞を受賞されたことから分かりますように、最も分かりやすく、そして最も人の心を捉える、そういう構想でありました。「癒し」という、日本人、また現代人が皆、求めているところを活かしながら、集客効果ということも、そして民間の活力の導入ということも十分考えられるプランである、ということで、この作品が最優秀となったものです。

もう少し言わせてもらおうと、議論の過程で問題になりましたが、あそこに温泉が出るだろうか、という話になりました。しかし、日本では掘れば温泉は出る、という意見に推されまして、何千メートル掘れば良いのか分かりませんが、（温泉が）出るという前提で、最優秀賞になりました。そういう意味では、大変、楽しい構想ではありますが、更にこれをもう少し、何かの形で特化されるところがあると、もう一つ、我々は迫力を感じるのではないか、と思いました。

次に優秀賞であります。審査委員の間では、最優秀賞も含めまして優秀賞をどれにするか、大変意見がそれぞれ活発に交わされました。24作品のどれが賞を取ってもおかしくない作品ばかりでありましたが、その中でも特に、この4作品につきましては、甲乙付けがたいところがあった、というのが審査委員みなさんの意見であったと思います。

優秀賞の一つである「世界和の食文化村プロジェクト」ですが、この作品はコンセプト

トの点で断然光っていました。目的、機能が非常にはっきりとしており、「食」というものに焦点を合わせて、周辺のお茶と合わせて、日本茶と日本の和食という、いわば茶の都づくりの中での明快なコンセプトを持った企画である、ということで非常に注目されたところです。現在、「食」というものが日本人だけではなく、世界全体のテーマとなっていて、それは、美食ということではなく、持続可能な食生活というもの、食糧供給というものをこれからどうするのか、というものです。その課題の中で、食をもう一度見直す、お茶とともに見直して、それを健康に繋いでいく、というコンセプトを、この作品の構想アイデアは可能にするのではないかと、ということで期待されたものであります。

二番目の「茶草場の丘」ですが、こちらは審査委員の評価が大きく分かれました。というのも、この案は 24 作品の中で最もユニークな作品だ、と我々は思ったからです。ですから、ユニーク過ぎて、ただの「丘」じゃないか、という意見もあったし、これだからこそランドマークになる、という強い意見もありました。そして、大いに議論したところ、やはり、単なる既成の概念による施設ではなく、こういったランドマーク的なものを通して、いわば人々が心の癒しを感じる、そういう場を創る、というのも、「茶の都」全体の中では一つのアイデアではないかと、ということで、ススキの丘を 5.5ha 造ろうという構想アイデアを、そのユニークさによって評価しよう、ということになったものであります。

三番目の「ウェルネスティランド大井川」ですが、この作品は、また明快なコンセプトがございまして。健康、というコンセプトですが、明快なコンセプトというのは 24 作品ほとんどに共通する課題でございましたが、これに一番明快にストレートに提案したのが、この作品の構想アイデアではないかと。また、この構想は、医療ツーリズムというような新しいビジネスを切り拓く、という意味でも、大いに注目されるということで受賞されたところです。

以上が、最優秀賞、優秀賞それぞれの作品に対する、審査会における議論を御披露したところでありまして。

最後にもう 1 つ、大事なことがあります。

これは、云うまでもなくアイデアコンペでございまして、実施設計のためのコンペでは無い、わけでございます。

ここで、皆さま方から豊かな、色々なアイデアを頂戴しました。これを事業化するには、もう一つプロセスが必要になります。従いまして、これがそのまま実現されるということではなくて、様々なアイデアを頂戴した中で、どうすればこれを事業化できるのか、ということ、次に考えていかなければならない、そういうための作業が必要になってまいります。

アイデアコンペを受けまして、皆様方からのアイデアを頂戴しながら、また他の作品のアイデアも頂戴しながら、これから、島田市そして県が、これを具体化していく、ということになってくるかと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたい、と思っております。

以上でございます。皆さん、大変おめでとうございます。